

保存版

菅谷地区福祉活動計画

自然の恵みに感謝！ 老いも若きも支え愛の菅谷

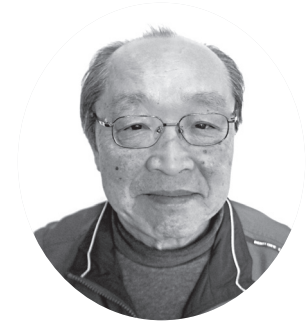
～残そう輝く緑 活かそう歴史と文化～



菅谷地区福祉懇談会・菅谷地区自治会長会

新発田市・社会福祉法人 新発田市社会福祉協議会

ごあいさつ



この度、新発田市と新発田市社会福祉協議会のご協力により、菅谷地区の「地区福祉活動計画」を策定させていただきました。

当地区は、菅谷不動尊を中心に歴史と文化あふれる緑豊かな中山間地域であり、自然を生かした稲作を中心に果物、野菜、畜産なども盛んで、自然の恵みである山菜も豊富で四季折々食卓を賑やかにしてくれています。

しかしながら、近年少子高齢化が進み子どもの数がめっきり少なくなり、菅谷小学校も統合の危機にさらされています。そんな菅谷地域を少しでも元気にするため「菅谷コミュニティ祭り」を開催し、毎年大勢の地域住民から楽しんで頂いている地域でもあります。

この福祉計画策定にあたり、福祉懇談会や編集委員会には各自治会の会長や役員、さまざまな地域組織の方々など多くの地域住民の皆様からご協力いただき、あらためて御礼申し上げます。

昨年の10月から福祉懇談会を3回実施し、グループでの討議を中心に話し合いを重ねるごとに、愛する菅谷の将来は、やはり地域住民が主体となって考え、お互い助け合える関係を築く事が大切であると感じております。

少子高齢化や人口減少、担い手不足、空き家の増加、獣害対策等の地域課題をあらためて認識しながら、緑豊かで恵まれた自然環境と文化遺産をいかに活かすべきか、菅谷地区のこれからの地域像を共有するなど地域としての連帯感も生まれました。

また、これらを共通の地域課題としてとらえ、地域で取り込むこと、一人ひとりが自ら取り組むこと、関係機関と連携して取り組むこと等、具体的な意見やアイデアを出すことができました。

この福祉活動計画を地域の皆様にご覧いただくとともに、これを機会として共に議論を深め、実践につなげていければと願うところです。

平成29年3月

菅谷地区自治会長会 会長 長谷川 芳三

目 次

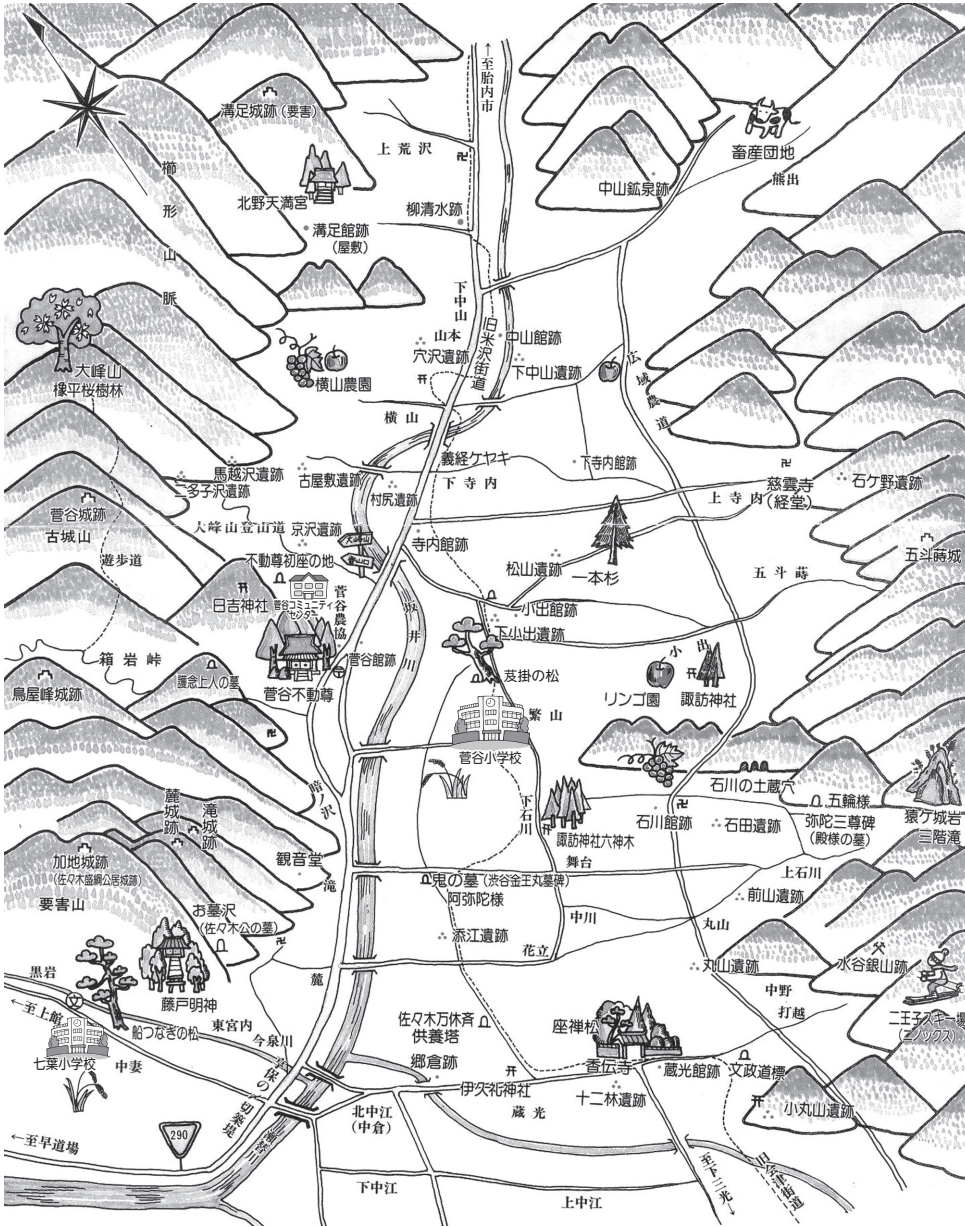
1	地域伝言板	
	(1) 菅谷地区の特徴	1
	(2) 菅谷地区の歴史と文化	2
2	計画の概要	
	(1) 菅谷地区福祉活動計画とは	3
	(2) 菅谷地区福祉活動計画の目的	3
	(3) 菅谷地区福祉活動計画の推進に向けて	3
	(4) 菅谷地区福祉活動計画づくりの意義	4
3	地域の魅力と現状	
	(1) 地域の魅力について	5
	(2) 地域の現状について	5
4	福祉活動計画	
	(1) 基本理念（スローガン）	6
	(2) 基本目標	6
	(3) 計画の実現に向けて	7
5	策定方法	
	(1) 菅谷地区福祉活動計画策定団体等	9
	(2) 菅谷地区福祉活動計画策定経過	10
	(3) 菅谷地区福祉懇談会で出された意見	11
6	参考資料	
	「新発田市地域福祉（活動）計画」の基本理念と体系	16
	菅谷地区福祉懇談会回覧	18



1 地域伝言板

米、果物、野菜、パワースポット…自然と歴史が豊かな菅谷地区

(1) 菅谷地区の特徴



菅谷地区の主な農産物・畜産

～ 菅谷地区 ～
 山間にある丘陵地の美しい農村地区です。日本三大不動のひとつで「菅谷不動尊」と親しまれている諸法山菅谷寺、りんご、ぶどうなどの果樹園があります。

～ 旧菅谷村 ～

- ・明治22年(1889)4月1日 町村制施行に伴い北蒲原郡菅谷村、繁山新田、小出村、上寺内村、下寺内村、横山村、丸市新田、下中山村、溝足村、上荒沢村、熊出村が合併し、菅谷村が発足。
- ・明治34年(1901)11月1日 北蒲原郡蔵光村と合併。
- ・昭和30年(1955)3月31日 新発田市に編入。

(2) 菅谷地区の歴史と文化

☆☆☆歴史と伝統、文化が息づく魅力あふれる地区☆☆☆

《菅谷不動尊》～真言宗醍醐派、諸法山菅谷寺～

源頼朝の叔父君護念上人（源慈応）の創建で、本尊の不動明王は毘首羯磨（びしゅかつま）の作と云われ、最澄（天台宗開祖伝教大師）が唐から請来し、比叡山無動寺に祀られていた、三国伝来の不動明王です。鎌倉時代に至り、比叡山で修行中の護念上人が、平家の圧力から比叡山を下りる際、日頃より帰依していた不動明王の「御頭」のみを笈に納め、諸国を巡錫したのち、文治元年（1185）に仏縁有って菅谷に一字を建立したのが寺の開山と伝わります。

東鑑（鎌倉幕府が編纂した日本の歴史書）には建久6年（1195）加地城主佐々木盛綱の報告により鎌倉にて上人は頼朝と対面し、その際祈祷により頼朝の大姫の病を本復させ、頼朝を大いに喜ばせた事が記載されています。

その後、落雷により伽藍は消失しましたが、みたらせの滝にてタニシが身を挺して本尊をお守りし無事であったと伝えられています。以来800年、霊場として全国より信仰を聚めています。

資料：新発田市観光協会ホームページより



《笈掛の松》

「笈掛の松」には、菅谷寺を開いた護念上人にちなんだ伝説があります。

護念上人は、源頼朝の叔父にあたります。平治の乱で源氏が平氏に敗れた後、僧侶になりました。しかし、いつ平氏の追っ手が来るか分かりません。上人は戦禍を逃れるため、不動明王像の御頭を収めた笈（仏具などを納める箱）を背負い、流浪の旅に出ました。旅の途中、菅谷で笈を松の枝に掛けて休んでいたところ、急に笈が重くなり動けなくなりました。このとき、笈から西の山へ光が差し、紫雲がたなびきました。これを見た上人は、菅谷を永住の地と悟り、不動明王像を安置する建物を建て、霊場の基を開きました。

参考資料：しばたニューライフ第92号

広報しばた 平成25年12月16日号より抜粋



《高橋光威碑》

高橋光威は、明治から大正期にかけて中央政界で活躍した、旧菅谷村出身の政治家です。

明治41年、高橋は衆議院議員選挙に出馬し、初当選を果たします。大正7年には、日本初の本格的な政党内閣・原敬内閣が誕生。内閣書記官長（現在の官房長官）に抜擢され、約3年間、原の側近として活躍し、昭和7年に66歳でその生涯を閉じました。碑は、その功績を称え、昭和8年に建てられたものです。

参考文献：「新発田市史」下巻

広報しばた 平成26年4月15日号より抜粋



《菅谷乗合自動車》

昔から「菅谷不動尊」は連日のように参詣する人で賑わっていました。遠方からは徒歩で来ましたが、羽越線開通後は新発田駅や加治駅から人力車で来る人も多くいました。大正9年、菅谷の人達が「菅谷自動車組合」を組織し、新発田・菅谷間に菅谷乗合自動車の営業を開始しました。菅谷不動尊参詣者の利用に供するものであり、やがて加治駅と菅谷を結ぶ路線も設けられましたが、どちらの料金も高額でした。その後、昭和5年「菅谷自動車株式会社」が設立されました。

資料：城下町新発田400年のあゆみより抜粋





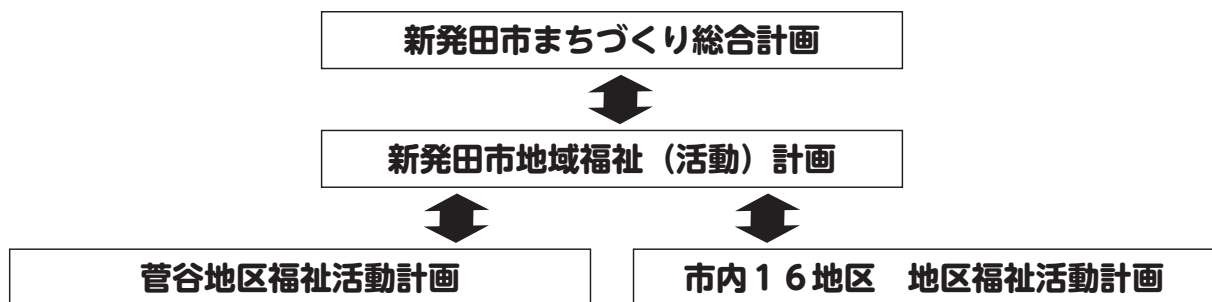
2 計画の概要

(1) 菅谷地区福祉活動計画とは

少子高齢化社会を迎え、社会全般が大きく変化している中、行政への市民要望は年々増大していますが、一人ひとりに適したきめ細かなサービスを行政だけの力で提供することは困難になっています。このため、市民が自立した生活をめざし、地域での福祉を「支え合い」によるシステムという新たな視点で再構築し、維持していく仕組みをつくりあげることが重要となっています。

新発田市は「まちづくり総合計画」の中で、目指すべき将来都市像を「住みよいまち日本一健康田園文化都市・しばた」としています。その基本理念の下に、新発田市地域福祉（活動）計画は、「しばたに住んで良かった。」と市民が言えるよう、地域において市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関が相互に知恵を出し、力を合わせながら、高齢者や障がい者など支援が必要な市民が地域で安心して生活を送ることができる“共生社会”の実現を目指しています。

「菅谷地区福祉活動計画」は、地域の中で問題となっていること、困っていることなどを「地域のみんなの問題」として捉え、話し合い、取り組んでいくための指針であり、「新発田市まちづくり総合計画」、「新発田市地域福祉（活動）計画」に基づいた計画です。



※地域福祉とは、「適切な地域を単位として」「地域住民が主体となり」「地域課題の解決に向けて」「自治会と行政なども含め」「お互いに知恵を出し合い」「支え合っていく」ことです。

(2) 菅谷地区福祉活動計画の目的

菅谷地区に対する想いを語り合うことを通して、「地域の現状や課題」、「地域でできること」、「自分でできること」、「こうなったらいいな」などを一緒に考え住民主体の地域福祉づくりを市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などと連携して進めていきます。高齢者や障がい者など支援の必要な市民が地域（菅谷地区）で安心して生活できる“共生社会”の実現をみんなで目指します。

(3) 菅谷地区福祉活動計画の推進に向けて

計画づくりの過程を通じ、みんなで同じ方向を向いて協働していくために、地域の課題や目標を共有しましょう。その上で、菅谷地区の中長期的な目標として位置づけ、市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などが連携して取組を進めていくことが重要です。

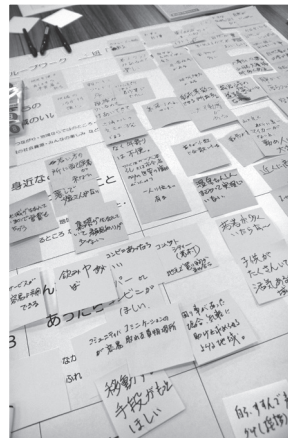
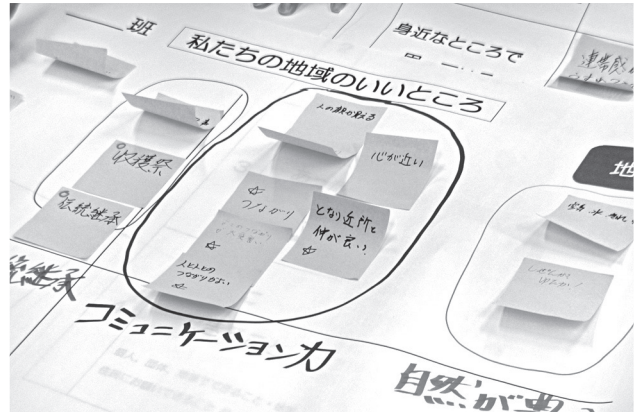


(4) 菅谷地区福祉活動計画づくりの意義

菅谷地区福祉活動計画を地域のみなんで作ることで

- ①地域の課題や目標を関係者で共有し、同じ方向を向いて協働することができます。
- ②計画を公表することで、地域の福祉活動について、広く地域住民の理解と協力が得られます。
- ③中長期的な見通しを持って、段階的・継続的に取り組んでいくことができます。
- ④活動の優先順位や重点がはっきりします。
- ⑤活動がうまく展開されてきたか振り返り、次の課題を明らかにすることができます。
- ⑥計画づくりの過程で人が育ち、地域の関係者の連帯も強くなります。

みんなで作る菅谷地区福祉活動計画





3 地域の魅力と現状

菅谷地区福祉懇談会で見てきた地域の魅力と現状

菅谷地区に住んでいる子どもから高齢者まで、すべての住民が地域においていきいきとした生活を送ることは菅谷地区住民のみんなの願いです。

この願いの実現に向けて、市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などが協働しながら、みんなで菅谷地区福祉活動計画を策定しました。

計画策定の具体的作業として、平成28年10月～平成28年12月まで3回にわたり福祉懇談会を開催し、地域の現状や福祉に関わる様々な課題について、話し合いをまとめました。

(1) 地域の魅力について

- ① つながりについて
 - ・ 隣近所のつながりが深い
 - ・ 人と人が顔の見える関係である
 - ・ 親戚のつながりが強い
 - ・ 地域ごとのまとまりがあり協力的である
- ② 地域活動について
 - ・ コミュニティ活動が活発である
 - ・ 地域の様々な団体の活動が活発である
- ③ 地域性について
 - ・ 人の気持ちが優しい
 - ・ 自然が豊かである
- ④ 社会資源について
 - ・ コミュニティバスがある
 - ・ お米や果物など美味しい物がたくさんある
- ⑤ 歴史や文化について
 - ・ 伝統が継承されている
 - ・ お祭りを大切にしている
 - ・ お寺や神社が多くある
 - ・ 歴史的な名所が多くある

(2) 地域の現状について

- ① つながりについて
 - ・ 連帯感が薄れてきている
- ② 地域について
 - ・ 野生動物の被害がある
 - ・ 一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増えている
- ③ 生活について
 - ・ 買物できるお店が少ない
 - ・ 積雪量が多い
 - ・ 交通の便が悪い
 - ・ 通院や買物で困っている高齢者が増えている
- ④ 後継者不足について
 - ・ 少子高齢化が進んでいる
 - ・ 未婚者が増えている
 - ・ 空き家が多い
 - ・ 若者や後継者が少ない





4 福祉活動計画

菅谷地区福祉活動計画

(1) 基本理念 (スローガン)

菅谷地区に住む住民一人ひとりが地域活動に積極的に関わり、お互いが個人として尊重しあい、生きがいや充実感をもちながらその人らしい生活ができることを目指していくことが大切です。こうしたことから次のとおり計画の基本理念を定めました。

自然の恵みに感謝！ 老いも若きも支え愛の菅谷
～残そう輝く緑 活かそう歴史と文化～



(2) 基本目標

福祉懇談会で話し合われた地域の現状や福祉課題に基づき、計画の基本目標を次のとおりとしました。

基本目標 1	自然の恵みに感謝！ 菅谷
基本目標 2	安心して暮らせる住み良い菅谷
基本目標 3	恵まれた歴史・文化を活かそう菅谷
基本目標 4	老いも若きも支え合うふる里菅谷
基本目標 5	我が ^{ふるさと} 郷土の魅力を発信する菅谷



(3) 計画の実現に向けて

目標達成の具体的な取組の例



福祉懇談会では

自分達でどんなことができるのか
アイデアを出し合いました。



◆基本目標 = こんな地域であつたらいいな

◆実施項目 = 私たちにできること（取組の例）

基本目標 1 自然の恵みに感謝！菅谷

目 標		実施項目（取組の例）
1	自然の恵みに ふれることができる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・川をきれいにして蛍の生息地を増やす ・山菜など「葉っぱのビジネス化」を検討する ・環境を整備し自然保護に努める ・山などに咲く花を大切にする
2	自然環境が活用できる 地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・休耕地を活用する（ヤギを飼うなど） ・楡形山脈や箱岩峠をもっと PR する ・雪を利用した雪室で米などを貯蔵し商品化を検討する ・花壇づくりや草刈りなど環境美化運動を行う

基本目標 2 安心して暮らせる住み良い菅谷

目 標		実施項目（取組の例）
1	安心して暮らせる住み良い 地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合いの声かけ運動や見守り活動を行う ・高齢者世帯の安否確認を行う ・ゲートボールや体操などを活用した健康づくりを行う ・コミュニティバスの利用促進を図る
2	みんなで支え合い安全な 地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で支える自主防災の活性化を図る ・地区全体の防災訓練を行う ・楡形断層も含め、啓発活動を行い防災意識を高める ・消防団を応援・連携する ・防犯活動の推進を図る

**基本目標3 恵まれた歴史・文化を活かそう菅谷**

目 標		実施項目（取組の例）
1	恵まれた歴史や文化を伝える地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の伝承活動を行う ・気軽に歴史にふれる機会をつくる ・史跡や遺跡などの維持管理を行う ・昔話など誰にでもわかりやすい取り組みを検討する
2	観光資源を活用できる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドを行う ・観光資源の活用を検討する ・道の駅や温泉の施設整備を検討する ・東屋（箱岩峠）をPRする

基本目標4 老いも若きも支え合うふる里菅谷

目 標		実施項目（取組の例）
1	誰もが助け合い支え合う地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪、買い物等のお手伝いなど、みんなで助け合い、支え合う ・ボランティア活動を活性化する ・高齢者の話し相手や相談など、支え合い訪問を行う ・地域で集まって情報交換をする ・登下校の見守り活動を行う
2	声かけ合いあいさつが飛び交う地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んであいさつを行う ・隣近所を中心に声かけを行う

基本目標5 我が^{ふるさと}郷土の魅力を発信する菅谷

目 標		実施項目（取組の例）
1	若者に地域の魅力を発信する地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力をPRする（看板など） ・地域の工房をつくる ・温泉を掘る ・若者対象のイベントを企画する ・地元の農畜産物を販売する直売所を行う
2	子どもから大人まで参加できる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティまつりを開催し、三世代交流を図る ・居場所づくりを行う（お年寄りの集いの場、子どもの遊び場、運動会など） ・地域活動や学校行事への積極的に参加する ・人が集まるイベントを計画し、地域の魅力を発信する ・歴史ある祭りや神楽の復活を検討する ・学生のための下宿先の提供など受け入れ体制を検討する ・地元のお米、野菜、果物などが試食できる機会や農畜産業の体験・交流ができる場を提供する ・菅谷と若者をつなぐコーディネートを行う



(2) 菅谷地区福祉活動計画策定経過

年月日	会議等	内 容
平成 28 年 7 月 14 日	打合せ (菅谷コミュニティセンター)	・地域福祉懇談会について 菅谷地区自治会長会役員と事前打合せ (参加者 7 名)
平成 28 年 8 月 4 日	菅谷地区自治会長会 (菅谷コミュニティセンター)	・菅谷地区福祉活動計画について説明 (参加者 22 名)
平成 28 年 9 月 1 日	第 1 回 菅谷地区福祉懇談会開催案内 回覧	
平成 28 年 10 月 27 日	第 1 回菅谷地区福祉懇談会 (菅谷コミュニティセンター)	・「菅谷地区福祉活動計画」勉強会 ・グループワーク 1 ①私たちの地域のいいところ ②身近なところで困っていること ③こんな地域であつたらいいな ④私たちにできること ・グループ発表 (参加者 64 名)
平成 28 年 11 月 15 日	第 1 回 菅谷地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成 28 年 11 月 24 日	第 2 回菅谷地区福祉懇談会 (菅谷コミュニティセンター)	・グループワーク 2 前回の振り返り及びまとめ 地区の現状と課題の整理 計画の基本目標の検討 ・グループ発表 (参加者 49 名)
平成 28 年 12 月 15 日	第 2 回 菅谷地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成 28 年 12 月 22 日	第 3 回菅谷地区福祉懇談会 (菅谷コミュニティセンター)	・グループワーク 3 前回の振り返り及びまとめ 基本目標の検討 スローガンの検討 ・グループ発表 (参加者 52 名)
平成 29 年 1 月 19 日	第 3 回 菅谷地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成 29 年 1 月 26 日	第 1 回編集委員会 (菅谷コミュニティセンター)	・菅谷地区福祉活動計画の基本理念、基本目標などの 検討 (参加者 16 名)
平成 29 年 2 月 21 日	第 2 回編集委員会 (菅谷コミュニティセンター)	・菅谷地区福祉活動計画の目標に向けた実施項目など の検討 (参加者 14 名)
平成 29 年 3 月 15 日	第 3 回編集委員会 (菅谷コミュニティセンター)	・菅谷地区福祉活動計画(案)修正・確認等 (参加者 14 名)
平成 29 年 3 月		・菅谷地区福祉活動計画完成



(3) 菅谷地区福祉懇談会で出された意見

グループに分かれて、地域の現状や課題を共有し、地域の皆さんで支え合いの知恵を出し合いました。

懇談会で皆さんが話し合われた意見をご紹介します。

1 私たちの地域のいいところ

- ・お寺がたくさんある
- ・菅谷寺がある
- ・大峰山がある
- ・要害山（藤戸神社）がある
- ・菅谷不動尊がある
- ・寺（香伝寺）がある
- ・神明神社がある
- ・菅谷寺等、散策できる所が多くある
- ・三大不動尊がある
- ・菅谷不動尊があって歴史や文化がある
- ・歴史的名所がたくさんある
- ・遺跡が多い
- ・伝統が継承されている
- ・箱岩峠の道路が大きく、きれいになった
- ・大峰山、櫛形山脈、大峰桜等が多くある
- ・スキー場がある
- ・国道 290 号線が走っている
- ・豊かな自然、美しい景色、スキー場
- ・自然があふれている
- ・自然が多い所
- ・自然が豊か
- ・空気、水がきれい
- ・水芭蕉の咲いているところがあり、自然に恵まれている



- ・雪が豊富
- ・空気が澄んでいる
- ・大きな自然災害が少ない
- ・自然が豊かで米、野菜がおいしい
- ・自然がいっぱい
- ・のどかな田園風景が広がっている
- ・自然で緑に囲まれている事
- ・自然豊かで四季が楽しい
- ・自然に恵まれている
- ・自然環境に恵まれた住みやすい地域
- ・静かで落ち着いている
- ・天災が少ない
- ・山や田畑があって自然が豊か
- ・川の水がきれい
- ・空気がきれい
- ・水がきれい（井戸水の活用）
- ・りんご園、ぶどう園がある
- ・米がおいしい
- ・お米が自慢
- ・山菜（わらび、ぜんまい、いおり、いたどり）がいっぱい採れる
- ・果物（りんご、ぶどう）がおいしい
- ・果物が多い
- ・おいしい豆腐屋がある
- ・地元におしゃれな洋食屋がある
- ・農協、駐在所、郵便局等の公的機関やカフェ、そば店等のおいしいもの（店）がある





- ・菅谷納豆が有名
 - ・山菜やりんご等の果物、米、野菜が豊富
 - ・コミュニティ祭りが盛大である
 - ・収穫祭がある
 - ・年2回、春秋祭り等を全員出席で行っている（全員がふれ合える場）
 - ・コミセンでのお祭りや活動がある
 - ・菅谷まつりがあり、近所の人達も楽しみにしています
 - ・集落ふれあいセンターがある
 - ・高齢者施設がある
 - ・老人施設（老健、特養・ケアハウス）が充実している
 - ・老人クラブがあるので楽しい
 - ・保健自治会、食生活推進の活動が活発
 - ・コミュニティ活動が多い
 - ・集落全員でそば打ち
 - ・毎年集落で旅行を実施している
 - ・コミュニティセンターを有効に使う事ができ、助かっています（習い事、学童）
 - ・慈雲寺（上寺内）、団子まき、楽しい活動がある
 - ・牛小屋、農業体験ができる
 - ・習い事をしている方が多くみられる
 - ・のどかで良い（悪い人はいない）
 - ・住むに良い
 - ・人が住み良い地区
 - ・人の面倒見が良い
 - ・職人さんが多い
 - ・心が近い
 - ・人の気持ちがやさしい
 - ・人間性が良い
 - ・みんな仲間
 - ・全ての行事に協力的である
 - ・皆さんで協力してくれる
 - ・集落行事は全戸参加する
 - ・集落の行事に参加する人が多い
- ・集落的にまとまりがある
 - ・みんな協力的である
 - ・地域に根ざした協働、共存がいかされている
 - ・地域のつながりが強い
 - ・近隣とのつながりが深い
 - ・人の顔が見える
 - ・隣近所と仲が良い
 - ・2世代、3世代家族が多い
 - ・つながりがある
 - ・横のつながりが良い
 - ・人と人とのつながりが大変良い
 - ・ご近所同士のつながりがある
 - ・親戚のつながりが強い
 - ・親族が周りにいるので助け合いができています
 - ・近隣同士の交流が活発
 - ・隣近所仲良く、農作業が楽しい
 - ・近所同士の付き合いが良い
 - ・コミュニティ、気づかい、助け合いの和が強い
 - ・昔ながらの近所づきあいがあり、地域がまとまっている
 - ・近所づきあいがあって、顔がよくわかる
 - ・集落内の家族がわかる
 - ・他集落との付き合いがある
 - ・顔見知りになると親切
 - ・何世代も同居している家が多い
 - ・私たちの近所の方は、いろいろなサークルに入っていて集まりが多く、とても楽しいです
 - ・子ども達もいじめもなく、皆で仲良く遊んでいる姿が微笑ましいです
 - ・車を数台持っている家が多い
 - ・コミュニティバスがある
 - ・コミュニティバスが通っている
 - ・コミュニティバスが安くて便利
 - ・コミュニティバスができて便利になった
 - ・現職市長の出身地





2 身近なところで困っていること

- ・高齢者の畑仕事が出来なくなっている（猿、小動物）
- ・猿、猪などの動物による作物の被害に困っている
- ・小動物などが多く住んでいる（猿、猪、ハクビシン、ムジナ）
- ・カメムシが多い
- ・猿、猪の対策をしてほしい
- ・猿が多く作物を荒らされる
- ・猿が頻繁に出没して、畑を荒らして困る
- ・森林等の手入れが出来ず、荒れかけている
- ・近年、畑が荒れてきた（草刈りをしない）
- ・子どもが少なくて困る
- ・子ども達の声が聞こえなくなった
- ・子どもの数が少なくなってきた
- ・少子高齢化の進行
- ・少子高齢化
- ・人口減少
- ・高齢者世帯が増えている
- ・高齢者が多い
- ・集落に一人世帯が増えた
- ・高齢の親と子の世帯が気になる
- ・一人暮らしの高齢者の増加
- ・一人住まいの方がいる
- ・近所でも行き来する機会が少なくなってきた
- ・集落が離れていて顔見知りが少ない
- ・世帯数が多く全体での交流が少ない
- ・高齢者の一人暮らし又は高齢者のみの世帯の増加が見られる
- ・一人暮らしやお年寄りで健康に不安がある人が増えている
- ・若い方のところに配偶者が来ない
- ・親子二人暮らしでよめさんが来ない
- ・若い人がいなく、活気がない
- ・日中、若い人がいなくなる
- ・若い世代の跡継ぎがほとんどの家庭でいない
- ・地域で知り合いの人が減っていく
- ・一人暮らしの男性が多い
- ・若者が都会へ行って人口が減ってきている
- ・雪の量が多くて困る
- ・雪が多い
- ・冬期間、雪で困っている
- ・雪が多くて冬は大変である
- ・除雪体制が整備されていない
- ・雪下ろしが大変だ
- ・積雪量が多く、雪かきが厳しい
- ・雪が多い、人権が守られているか
- ・雪が多いので囲いが大変だ
- ・空き家が増えた
- ・空き家が多くなっている
- ・空き家が見えるようになった
- ・空き畑が多い
- ・買物が不便
- ・地域にスーパーがないこと
- ・スーパーがなく年寄りが不便
- ・スーパー、コンビニがない
- ・スーパーがない
- ・一杯飲み屋が少ない
- ・店が近くにない
- ・近くに店がなく買い物に不便である
- ・山に近く街に遠い
- ・勤め先まで遠い
- ・道路が不自由
- ・自家用車が無いと住めない
- ・マイカーがないと勤め人は大変！
- ・バス停が家から遠い
- ・バスの本数が少ない
- ・高齢者の交通の便が悪い
- ・交通の便が悪い
- ・交通手段が限られている
- ・坂道が多い（足腰が弱くなると出かけるのが大変）
- ・医療機関がない
- ・病院が遠い
- ・一人暮らしの方の買物、通院
- ・子どもの遊び場がない
- ・野菜を売る（卸す）場所が遠い
- ・世代間のズレ
- ・損得勘定が先
- ・川のごみが多い
- ・環境整備が進んでいない
- ・温泉探しんまでやって実現していない
- ・地域がはなれているので習慣もちがう
- ・家々が少数に分散している
- ・連帯感が薄れてきている



3 こんな地域であつたらいいな

- ・思いやり、気づかいのある地域であつてほしい
- ・相手の立場が考えられる
- ・人にやさしい地域
- ・笑顔があふれる地域
- ・子どもがたくさんいて、にぎやかな地域
- ・子どもがたくさんいて、活気ある地域に！
- ・子どもが見えて、声が聞こえること
- ・昔のように、子どもや若者が多い集落になつたらいいな
- ・子どもが増えたらいいな
- ・外で子ども達がたくさん遊んでいる
- ・子どもが遊べる場所があればいいな
- ・子ども達が喜んで集まる遊園地がほしい
- ・子どもや大人が皆で参加する活動が増えれば活気が出る
- ・子どもがたくさんいたらいいな
- ・若い人の住みやすい地域にしたい
- ・若者が残れる環境であつてほしい（職場問題も含めて）
- ・よめが来てくれる地区であつてほしい
- ・若者が多くいたらいいな
- ・若者が増えて欲しい
- ・若者が定住できる魅力ある地域であつてほしい
- ・若い人が地域に来てくれたらよい
- ・気兼ねなく雑談する場所があればいい
- ・歩いていける地域の茶の間が自治会単位でほしい
- ・お年寄り達が自由にお茶飲みでき、集まれるカフェがあつたらいいな
- ・空き家が地域の人の集いの場になるといいな
- ・冬の間だけでも一人暮らしのお年寄りが集合して生活できる場がほしい
- ・川で魚釣りが出来たらいい
- ・魚が釣れる川にしてほしい
- ・雪を利用し、雪室等で米などを貯蔵できればいいな
- ・道の駅がほしい
- ・地元の産物を販売できる店があればいいな
- ・身近に買い物ができる場所
- ・地元で買い物が間に合う
- ・地元の産物でお互いに暮らす
- ・コミュニケーションの取れる買い物場所があればいい
- ・手造り工房
- ・コンビニがあつたらいい
- ・スーパーやコンビニがほしい
- ・飲み屋があればいいな
- ・温泉施設があつたらいい
- ・自由に行ける足湯があつたらいいな
- ・大きな病院ができたらいいな
- ・小学校統合を早くしてほしい
- ・冬期間、運動場があつたらいいな
- ・やぎ、ウサギの里をつくる
- ・フラワーガーデンをつくる
- ・水の販売工場をつくる
- ・山菜や葉っぱのビジネス化
- ・働く場がいっぱいあるといい
- ・仕事場が地域があれば、若者が定着！
- ・移動する手段がもっとほしい
- ・困り事があつた場合、気軽に助けを求められるような地域
- ・車、農機具のシェア
- ・昔みたいに隣近所とつながりたい
- ・昔の社会に戻つたらいい
- ・クラブ活動が続くといいな
- ・世代間交流ができたらいいな
- ・留学生の受け入れをする
- ・デイサービスが容易に利用できる
- ・コミュニティバスが容易に利用できる
- ・観光地で人が多く来る
- ・天満宮の有効活用
- ・お寺の活用（①座禅、②メタボ道場）
- ・歴史ある地域、もう少し人が立ち寄るといいな
- ・スキー場や菅谷不動尊近くに宿泊施設や観光でお客さんが多く来るといいな
- ・観光資源をもっと活用されたらいいなあ～
- ・観光地などの良い所がたくさんあるので発信していけたらいいな
- ・加地城主、乃木將軍碑などの歴史をPRできればいい
- ・お祭りが続くこと
- ・害虫（カメムシ）対策
- ・猿、猪等の心配がなく、人間優先の地域
- ・除雪が行き届いた地域
- ・消雪の設備を整えているといい
- ・災害のない地域
- ・消防車、救急車が地域に待機する
- ・避難場所が決まっていないので周知して欲しい



4 私たちにできること

- ・できるだけ高齢者に声をかける
- ・子ども達に積極的に声をかける
- ・声かけ
- ・あいさつを心がける
- ・人とのつながり（あいさつ、声かけ）
- ・自ら進んで声かけ（あいさつ）をする
- ・あいさつ運動
- ・声かけ運動
- ・近所の声かけ
- ・高齢者世帯の安否確認
- ・見守り活動
- ・通学の時、一週間に1回でも子ども達と一緒に歩いて見守りをする
- ・隣近所への声かけ
- ・毎月、お年寄りや一人暮らしの方の見守りをしています
- ・一人暮らしへの声かけ
- ・ご近所同士のあいさつ
- ・人助け（話し相手）など
- ・一人暮らしの人の話し相手になる
- ・集落の助け合い
- ・困っている人の力になる事
- ・地域での話し相手など、できることは協力したい
- ・ボランティア活動をする
- ・高齢者世帯で、日常的に困難な生活をしている方へのボランティア活動
- ・高齢者の悩みや相談に応じます
- ・困ったことを相談する
- ・会話の延長上の不安を察知する
- ・集落の催し物等があれば手伝っていききたい
- ・支え合い訪問ができる地域にする
- ・運転等で買い物の手伝いをする



- ・車の送迎
- ・短時間の軽作業の手伝い
- ・除雪作業を手伝う
- ・一人暮らしの高齢者宅の除雪の手伝い
- ・集落内の情報交換
- ・集落でさまざまなグループがあり毎月集まって地域の情報交換をする
- ・若い人にも参加、意見を聞いて一緒に考えたい
- ・若者を地元に着定できるようにする
- ・地域活動や学校行事への参加
- ・自ら進んで行事等に参加する
- ・皆が気軽に集まれる場所、催しをつくる
- ・認知症サポーター養成講座を開催する
- ・高齢者の健康づくり
- ・健康維持へのお話し会（出張）しています
- ・子ども達に昔話を聞かせる
- ・一ヶ月に1回でも一人暮らしのお年寄りに昼食を作っ
てあげたい
- ・カラオケ慰問を続ける
- ・直売所をやる
- ・ソロバン教室
- ・転倒防止運動活動ができる
- ・趣味等の指導、助言
- ・コミュニティ活動、歴史部があるが、もう少しPRし
たい
- ・発電機（インバータ）を利用する
- ・井戸水を利用する
- ・がんばる!!
- ・自然の保護等に努める
- ・各種負担金、募金、協力金
- ・地域の環境整備、住み良い集落にする
- ・防災活動の充実にも努める（集落自主防災）
- ・菅谷地区全体の防災活動
- ・この地域で生活すること（住みつづけること）





6 参考資料

「新発田市地域福祉（活動）計画」の基本理念と体系

1 基本理念

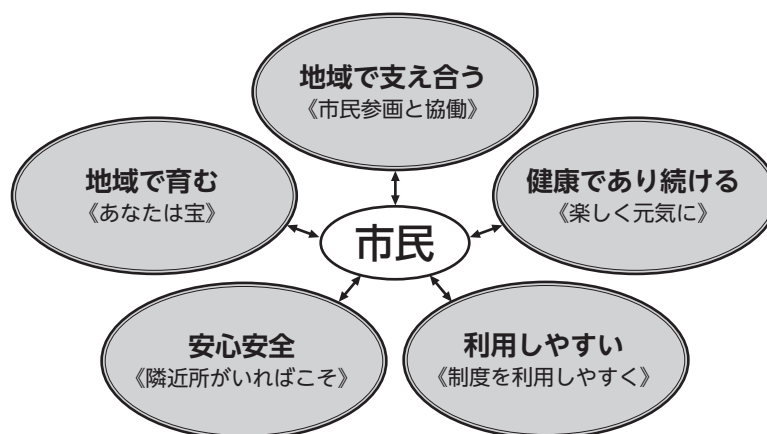
新発田市に暮らす子どもや若者から高齢者までの誰もが、新発田市の歴史と風土を大切に、新発田市民であることを誇りに思う新たな福祉の地域づくりをめざし、新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念を次のものとします。

～新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念～

すべての市民が住みなれた地域でともに支え合い
安心して暮らせる福祉の地域づくり

※「出来るものならば、ずっと育ってきた地域で自立して生きていきたい。」だれもが望む幸せとは、このような当たり前のことではないでしょうか。

地域福祉（活動）計画は、顔の見える一定の地域を面として、「地域の市民力」「地域の資源力」「行政力」という3つの力を活かし、地域に住んでいる住民や地域で活動している民間団体や事業所が、社会生活を送るうえでお互いに支え合うというわかりやすい仕組みを、行政との協働により住民自ら創り、自ら地域の実態に即した活動を展開するためのものです。そのためには、「地域のことは地域で」（下図参照）を基本として、地域に暮らすだれもが笑顔に包まれ、自分らしく健康で自立した生活を送り、生きること喜びを見出していける地域社会の実現を目指します。



新発田市地域福祉（活動）計画は、地域福祉をより効果的に推進するため、市が策定する「地域福祉計画」と社会福祉協議会が住民とともに策定する「地域福祉活動計画」を一体化して策定したものです。新発田市及び新発田市社会福祉協議会のホームページに掲載されております。

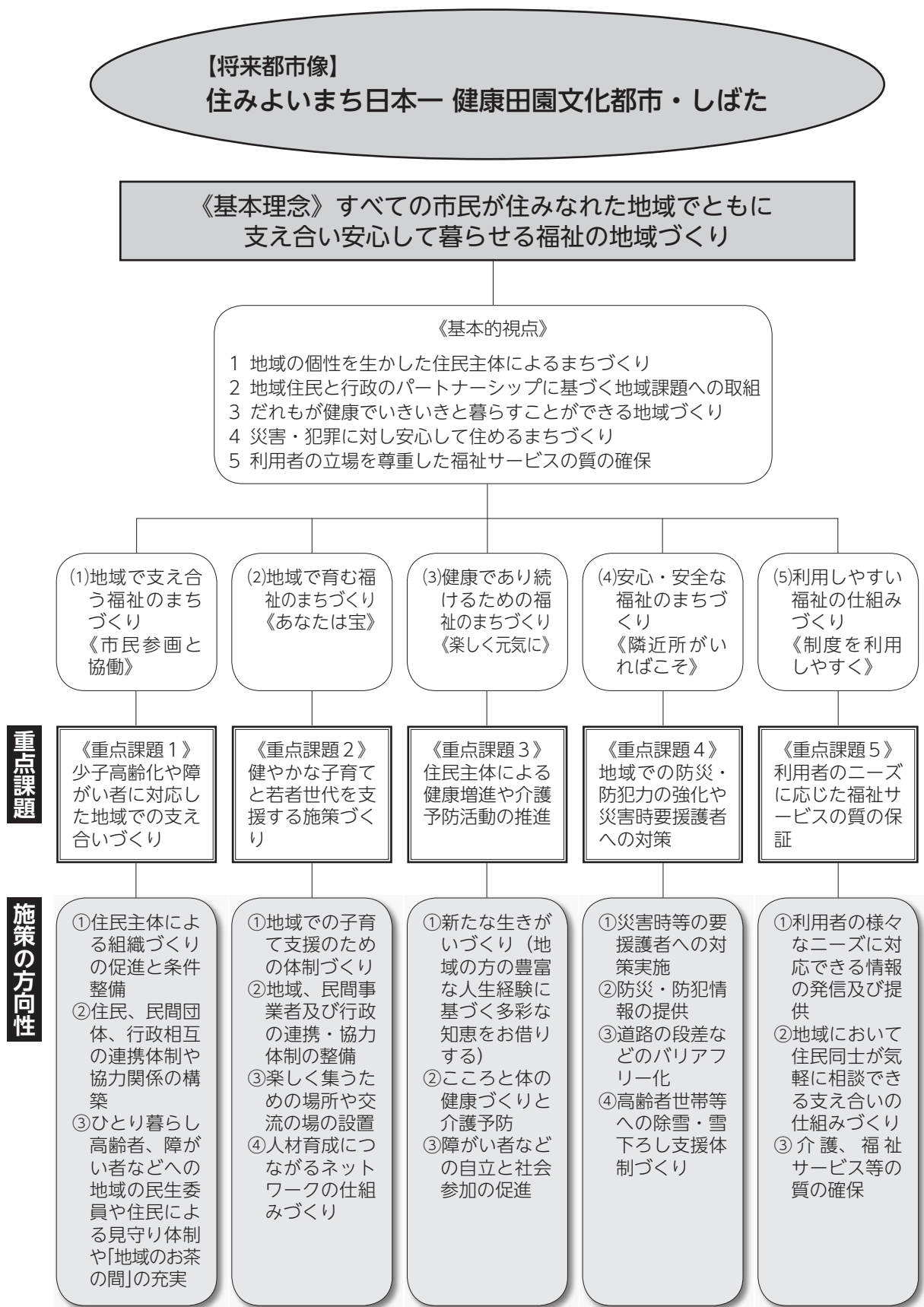
問合せ先：新発田市社会福祉課
Tel 22-3030

新発田市社会福祉協議会
Tel 23-1000



2 計画の体系

新発田市は、以下の基本理念に基づき、それぞれの重点課題について、施策を実施しながら計画の推進に取り組んでいきます。



誰もが住み慣れた 地域で安心して生活 を送るために

地域の人と人とのつながりを大切に
し、お互いに助けたり助けられたりす
る関係やその仕組みづくりを目指して



第1回 菅谷地区福祉懇談会

日程 平成28年10月27日(木)
会場 菅谷コミュニティセンター
参加者 住民47人
市・社協・包括17人

- ①開会挨拶
菅谷地区自治会長 長谷川会長
- ②趣旨説明
新発田市 社会福祉課
- ③勉強会
新発田市社会福祉協議会
- ④グループワーク
「魅力あふれる菅谷地区を目指して」
- ⑤閉会挨拶
菅谷地区自治会長 中野副会長

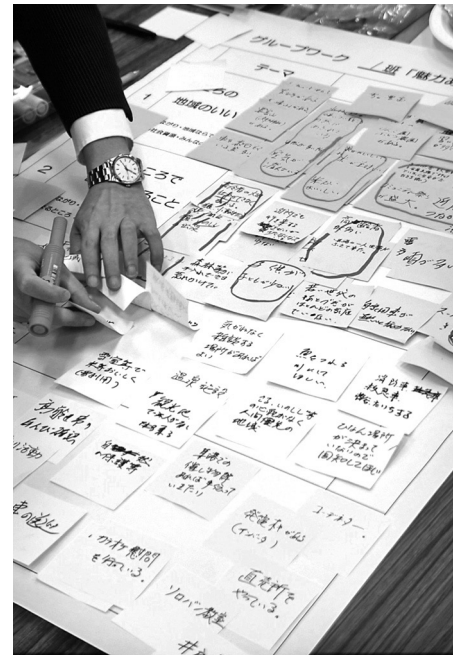
福祉活動計画の理解を深め より顔の見える関係に

これからのまちづくりは、子どもから高齢者まで住民の誰もが住み慣れた地域の中で、心豊かに安心して暮らせるような仕組みをつくり、それを持続させていくことが求められています。

そのためには、さまざまな生活課題について住民一人ひとりの努力(自助)、住民同士の相互扶助(共助)、公的な制度(公

助)の連携によって解決していかうとする取り組みが必要です。

菅谷地区福祉懇談会では、住民や関係団体、社会福祉協議会、行政が、福祉懇談会を通じて、地域の良いところや課題などを共有しながら、住民の行動計画である「菅谷地区福祉活動計画」の策定を目指しています。



関心から気づきへ 気づきから共感へ 共感から地域の支え合いへ

第1回菅谷地区福祉懇談会の会場には、住民47名の方々からご参加いただき、市職員8名、社会福祉協議会職員7名、東地域包括支援センター職員2名と一緒に「菅谷地区福祉活動計画」の策定に向けて、地区福祉活動計画についての勉強会やグループワークを行いました。

勉強会では、「生活に密着した福祉問題と解決に向けた仕組みづくり」をテーマに地域福祉計画とは何か、菅谷地域における地区福祉活動計画の持つ意義などの理解を深めました。

また、グループワークでは、顔の見える関係づくりを目指し、グループごとに「私たち地域のいいところ」「身近なところで困っていること」「こんな地域であつたらいいな」「私たちにできること」をテーマに話し合いながら参加者のつながりを深めました。

第2回の福祉懇談会では、魅力あふれる菅谷地区を目指して、第1回のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら、意見やアイデアを整理し、これからの菅谷地区の基本目標や今後の展望を話し合います。



第2回菅谷地区福祉懇談会

日時 平成28年11月24日(木)
18時30分～20時30分
会場 菅谷コミュニティセンター

発行 菅谷地区自治会長会

新発田市

新発田市社会福祉協議会

編集 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 23-1000 FAX 26-3300

地域のすべての人が
自分らしく安心して暮らして
いける地域を目指して

互いに支え合い、一人ひとりが自分たちのできる事を考え、地域福祉の基本的な考え方に基づいて、主体的に参加・協働する地域に向けて



第2回 菅谷地区福祉懇談会

日程 平成28年11月24日(木)
会場 菅谷コミュニティセンター
参加者 住民33人
市・社協・包括16人

①開会挨拶

菅谷地区自治会長 長谷川会長

②グループワーク

- ・ 前回の振り返り及びまとめ
- ・ 地区の現状と課題の整理
- ・ 基本目標の検討
- ・ グループ発表

③閉会挨拶

菅谷地区自治会長 中野副会長

ほっとけないの「気づき」を 伝える仕組みづくり

核家族化や少子高齢化によって「向こう三軒両隣」のような日本の古きよき伝統文化が姿を消しつつあります。

その結果、家族や地域とのつながりのカタチが変化し、地域の伝統文化や郷土愛も薄れ、地域資源が豊かであるにも関わらず継承が困難な状況になっています。

そのため“菅谷地区福祉懇談会”では、より多くの住民に地

域への関心を持ってもらい、顔の見える地域づくりを基盤に「気づき」を伝える仕組みを目指します。

第2回懇談会では、グループごとに第1回懇談会で話し合われた4つのテーマ(地域の魅力・地域課題・これからの地域像・これから取り組めること)の内容を振り返りながら意見などを整理し、会場全体で共有しました。



地域の魅力を再認識し 地域の課題を共有するために

第2回福祉懇談会では、住民33名の方々からご参加いただき、市職員8名、社会福祉協議会職員6名、東地域包括支援センター職員2名と一緒に菅谷地区福祉活動計画の策定に向けて、グループワークを行いました。

グループワークでは、第1回懇談会で洗い出された地域にある資源や課題、地域の現状を整理し、今後さらに住み良い地域に向けて、これからの地域像を参加者全員で共有しました。

グループワークの話し合いでは「歴史・文化に恵まれた地域」「伝

統を継承している」「コミセン活動が活発」「祭事・行事が少なくなった」「若者の地域離れ」などの意見や「若者に魅力ある地域になったらいい」「子どもの遊び場・お年寄りの集いの場が必要」「地域で支え合えるのではないかな」「地縁（絆）を深めたい」など活発な意見交換がありました。

次回は、第2回福祉懇談会のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら意見やアイデアを整理し、これからの地域の展望を話し合い、菅谷地区福祉活動計画の基本目標を検討します。



第3回菅谷地区福祉懇談会

日時 平成28年12月22日(木)
18時30分～20時30分
会場 菅谷コミュニティセンター

発行 菅谷地区自治会長会

新発田市

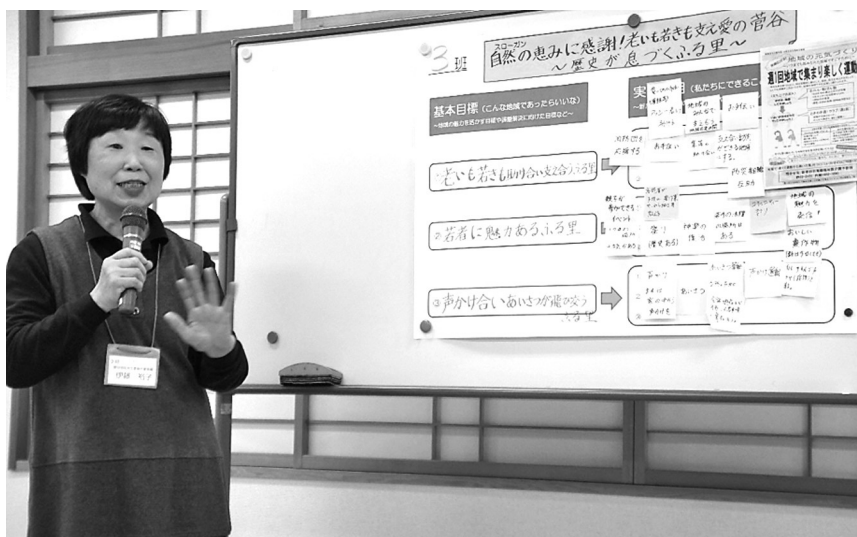
新発田市社会福祉協議会

編集 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 23-1000 FAX 26-3300

地域のSOSを 見逃さない つながりのある 地域をつくる

地域のつながりを実感できるように身近な地域で福祉活動を活性化し、新しい地域づくりを目指します



第3回 菅谷地区福祉懇談会

日程 平成28年12月22日(木)

会場 菅谷コミュニティセンター

参加者 住民37人

市・社協・包括15人

①開会挨拶

菅谷地区自治会長 長谷川会長

②グループワーク

- ・前回の振り返り及びまとめ
- ・基本目標の検討
- ・スローガンの検討
- ・グループ発表

⑤閉会挨拶

菅谷地区自治会長 中野副会長

これからの地域を話し合い

誰もが参加できる取り組みを目指して

ご近所の助け合いによって支えられてきた人々の暮らしが、生活の孤立化、複合的な課題を抱える世帯の増加、地域での連帯感の希薄化などが進み、制度の谷間にあって対応できない課題も多く生じてきています。

“菅谷地区福祉懇談会”では、地域の住民が主体となって地域での支え合いを図り、より一層の地域福祉活動の活性化を目指すことで、住み慣れた地域でこ

れまでの社会関係を維持しながら、誰もが生きがいを持ち、一人ひとりが役割を発揮する地域づくりに向けて力を合わせる必要があります。

第3回福祉懇談会では、第2回のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら、整理したキーワードをもとに、菅谷地区福祉活動計画の基本目標やスローガンを検討しました。



人と人との「つながり」を地域に広げる あたたかい地域づくりを推進するために

第3回菅谷地区福祉懇談会で、住民37名の方々からご参加いただき、市職員7名、社会福祉協議会職員7名、東地域包括支援センター職員1名と一緒に菅谷地区福祉活動計画の策定に向けて、それぞれの立場を越え、参加者全員で第2回福祉懇談会にて話し合われた内容をもとに、計画の基本目標や具体的な実施項目、スローガンを検討しました。

「声かけ合い あいさつが飛び交うふる里」「伝えよう 菅谷地区の魅力」などの基本目標や、「観光ガイドをする」「菅谷と若者をつなぐコーディネート」「声かけ

運動」「人が集まる場づくり」「地域で支える自主防災」などの目標に向けた具体的な取り組みを話し合いました。

また、スローガンの候補として「大好き！！菅谷」「絆と豊かな自然があふれる住みよい“すがたに”～菅谷・姿に～」などが提案されました。

今後、編集委員会を中心に、安心して暮らせる地域づくりを目指して、福祉懇談会で話し合われた内容を集約し、地域の助け合い・支え合いを基盤にした住民の福祉活動の指針“菅谷地区福祉活動計画”を策定いたします。



第1回菅谷地区編集委員会

日時 平成29年1月26日(木)
18時30分～20時00分
会場 菅谷コミュニティセンター

発行 菅谷地区自治会長会 新発田市 新発田市社会福祉協議会
編集 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL 23-1000 FAX 26-3300

菅谷小唄

花のトンネル 行き交う善女
霞の奥の霞の 霞の奥のお不動様

あねこ十六 箱岩娘
私や間沢の私や 私や間沢のほととぎす

花は吉野か 越後の加治か
菅谷不動は菅谷 菅谷不動は日本一

穂波すず波 実りの秋よ
二王子下にや二王子 二王子下にや腰や曲がる

ちよいと姉さん 菅谷詣り
モンペ姿にモンペ モンペ姿に薄化粧

あーら嬉しや 心願成就
ぱっと明たよぱっと ぱっと明たよ目が明いた

今日も炭焼き 丈余の雪も
私の笑顔で私の 私の笑顔で瀬がぬるむ

花の大峰 紅葉の薬師
清い流れの清い 清い流れの坂井川

盆だ踊ろよ お不動様に
わしの願いのわしの わしの願いが届くよに

花の大峰 背中に負うて
森が見えます森が 森が見えますお不動様

四方を廻らす 緑の山は
薪に材木薪に 薪に材木炭どころ

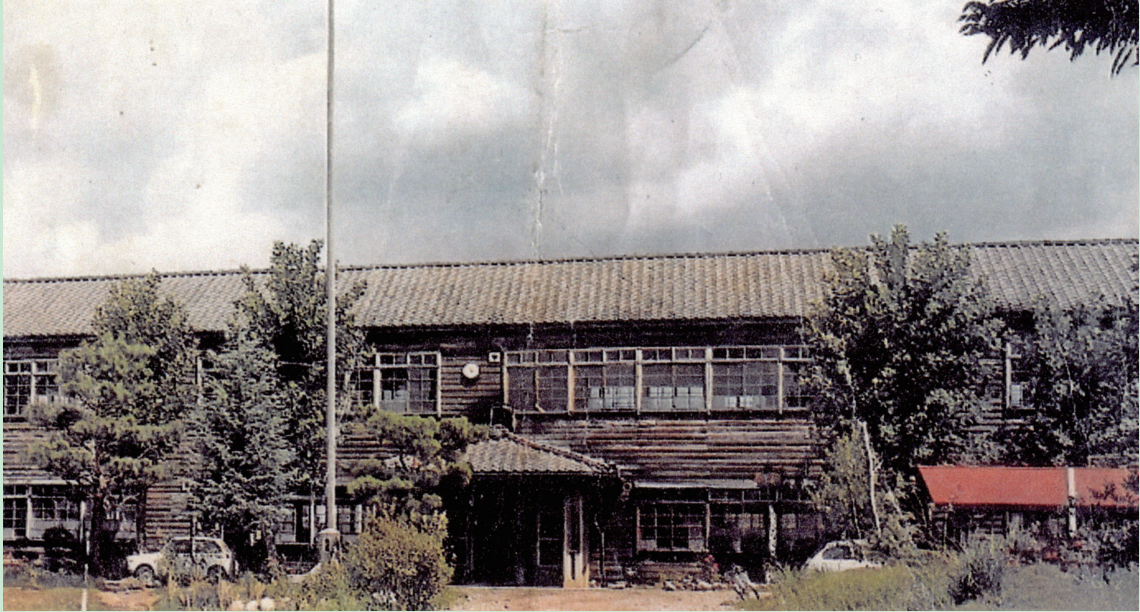
ねじり鉢巻き 村長さんも躍る
民主菅谷民主 民主菅谷おらが村

じいも躍るぞ ばあさも踊れ
昨日来た嫁昨日 昨日来た嫁音頭とる



菅谷地区編集委員

No.	懇談会グループ	氏名	所属
1	1班	長谷川芳三	菅谷地区自治会長会
2	1班	高橋 次夫	菅谷加治地区民生委員児童委員協議会
3	1班	倉島 栄子	菅谷加治地区民生委員児童委員協議会
4	2班	山口 晃	菅谷地区自治会長会
5	2班	奥田ツヤ子	菅谷地区保健自治会
6	3班	中野久平次	菅谷地区自治会長会
7	3班	太田 喜健	横山自治会
8	3班	児玉 浄信	新発田市老人クラブ連合会
9	4班	本間 剛	菅谷地区自治会長会
10	4班	小島 修	滝自治会
11	4班	渡邊ミナ子	菅谷加治地区民生委員児童委員協議会
12	5班	松川原明子	菅谷加治地区民生委員児童委員協議会



菅谷中学校

※菅谷中学校は昭和 55 年 4 月に七葉中学校に統合されました。

菅谷中学校校歌

真島勝郎 作詞
山田正与 作曲

一 清らなり 一王子

さしあかる しこのめ

仰げ 我が校章を

花は開く ささりんどう

ああこの光 身にあびて

不動の道を いざゆかん

二 展けたり 南に

風光る この丘

見よや わが学び舎

窓は開く 高きみ空

ああこの光 身にあびて

不動の道を いざゆかん

三 幸おほき この山

豊なり かの川

思え わが歴史を

薫る名あり 東鑑

ああこの光 身にあびて

不動の道を いざゆかん

～ みんなでつながる福祉のまちづくり ～

編集：菅谷地区編集委員会・菅谷地区自治会長会
新発田市・社会福祉法人 新発田市社会福祉協議会

発行：平成 29 年 3 月
新発田市

〒 957 - 8686 新発田市中心 3 丁目 3 番 3 号
社会福祉法人 新発田市社会福祉協議会

〒 957 - 0054 新発田市本町 4 丁目 16 番 83 号